

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	456	475	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	8	5	ヘルパンギーナ	13	11
咽頭結膜熱	16	19	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	3	7
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	110	95	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	463	431	流行性角結膜炎(はやり目)	11	16
水痘	72	118	細菌性髄膜炎	2	0
手足口病	43	19	無菌性髄膜炎	0	0
伝染性紅斑(りんご病)	4	3	マイコプラズマ肺炎	4	5
突発性発しん	48	45	クラミジア肺炎	1	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- インフルエンザ
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数463件(前週報告数431件)と増加。地区別では、有明、山鹿、菊池に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の82件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- インフルエンザは、報告数456件(前週報告数475件)と減少。地区別では、菊池、天草、山鹿に多く報告がみられます。年齢別では、10～14歳の75件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、報告数110件(前週報告数95件)と増加。地区別では、菊池、宇城、天草に多く報告がみられます。年齢別では、4歳の24件を最多に幅広い年齢層からの報告です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	109	2	7	35	105	38	14	2	10		2	3		11	1			
山鹿保健所	20				37	1	4		3				*	*				
菊池保健所	152		7	41	84	12	5		13		1							
阿蘇保健所	4			1	3								*	*				
御船保健所	13				5								*	*				
八代保健所	9	1	1	4	58	4	3		2									
水俣保健所	15				10	5	1		1		1		*	*				
人吉保健所	18	3		1	16	3	10		4		1		*	*	1			1
有明保健所	39				102	3	2	2	7									2
宇城保健所	30	2	1	14	26	3	4		4				*	*				
天草保健所	47			14	17	3			4		8							2
計	456	8	16	110	463	72	43	4	48	0	13	3	0	11	2	0	4	1

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5月	6～11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上
インフルエンザ	456	1	5	18	15	28	23	19	49	51	50	24	75	27	11	23	16	7	7	3	4
小児科定点年齢	合計	0～5月	6～11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上						
RSウイルス感染症	8	2	5		1																
咽頭結膜熱	16	1	5	5	1	2	1					1									
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	110		1	1	11	19	24	15	7	8	6	5	7	1	5						
感染性胃腸炎	463	10	48	82	45	52	46	42	22	18	15	11	30	6	36						
水痘	72		7	14	14	21	7	3	3	1	2										
手足口病	43		8	26	6	2		1													
伝染性紅斑	4		1		2	1															
突発性発しん	48	1	20	21	4	2															
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	13		1	2	5	2		1	1			1									
流行性耳下腺炎	3						1					1	1								
眼科定点年齢区分	合計	0～5月	6～11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	11					1		1						2		2	3	1	1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	2												1				1				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	4		2	1													1				
クラミジア肺炎	1														1						

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- 感染性胃腸炎:有明、山鹿、菊池
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:菊池

風しんの発生が
続いています
予防接種を
受けましょう!



【風しんの発生が続いています。予防接種を受けましょう。】

風しんは2～3週間の潜伏期を経て、発疹、発熱、リンパ節の腫れなどがみられます。大人が感染すると症状が重くなることも多くあります。県内では今週3件の報告があり、今年の累計報告数は40件となりました(昨年1年間の報告数5件の8倍)。2月中旬以降、毎週報告が続いています。これから、初夏にかけて風しんの流行期を迎えます。今後、さらに流行が拡大する可能性がありますので、今後の動向に注意してください。

- 定期予防接種の対象者は、必ず予防接種を受けましょう。また、妊婦の感染を防ぐために、妊娠希望者や妊娠の可能性の高い方、妊婦の夫や子どもさん等は、任意で予防接種を受けることを検討しましょう。妊娠中は風しんの予防接種を受けることはできません。任意接種は、費用は自己負担となりますので、小児科や内科等の医療機関にお問い合わせ下さい。
- 妊婦は注意!妊娠初期に風しんにかかると、赤ちゃんの目や耳や心臓に障害をきたす可能性があります。風しんにかかったら妊婦や、妊娠しているかもしれない人に近づかないようにしましょう。
- 【インフルエンザ再増加。感染予防対策を忘れずに。】先週再増加しましたが、今週はほぼ横ばいでした。インフルエンザによる学年閉鎖や学級閉鎖の報告も続いています。報告では約9割がB型ウイルスです。防務するためには、引き続き以下の感染予防対策を徹底しましょう。
 - ・せきエチケットを守りましょう。
 - ・出来る限り人混みを避けましょう。
 - ・こまめに石けんを使った手洗いをしましょう。
 - ・十分な栄養、休養、睡眠を心がけましょう。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvitan.jp/>

情報提供: 熊本県健康福祉部 健康危機管理課